

山添藤真

ともに、未来を創ろう

新緑の候、皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
2010年4月11日に投開票されました与謝野町議会議員選挙におきまして、皆様から温かいご支援を頂き、初当選させて頂いてから早くも3年の歳月が過ぎました。

この3年間を振り返ってみますと、議会では、本会議・常任委員会・議会活性化特別委員会など、地域団体では、宮津青年会議所・与謝野町商工会青年部・与謝野町消防団などの活動を通して、様々な課題解決に取り組んできました。

今後も皆様から伝えて頂いた豊かな文化や伝統を含めた社会環境を未来へと託すことができるよう全力で活動して参ります。引き続き、ご指導・ご鞭撻をどうぞよろしくお願い致します。

本活動レポートでは、3月定例会の発言の一部や日々の活動についてご報告致します。

京都府北部における大学新設について

私は、次に掲げる3つの主な理由により、京都府北部に国公立大学を新設したいと考えています。

一つ目の理由は、この地域で育つ子どもたちに**高校卒業後の進路の選択肢を増やしてあげたい**という理由です。私は、この議席を預かった直後から現在に至るまでの3年間、京都市、大阪市、東京都、仙台市などの都市部で機会あるごとに、与謝野町をはじめ丹後地域を出身地にもつ大学生や出身者の皆さんと対話を重ねてきました。ふるさとを離れ、それぞれの場所で大学生や社会人として生活する彼ら彼女たちに、高校卒業後の進路選択について、「もし実家から通うことができる大学があれば、**地元に残っていましたか**」という質問をすると、多くの方が「はい」と答えてくれます。こうした嬉しい返答をしてくれる子どもたちのために、「**地元**の大学に通える」という**選択肢**を提供してあげたいと思っています。

二つ目の理由は、**地域経済の強化を促進したい**という理由です。現在の日本では、すべての都道府県に国立大学法人が設置されています。これは教育の均等化政策として行われてきました。しかし、ひとたび大学が設置されると様々な外部効果が生まれます。大学は遠方から学生を集めるし、それに伴い、これらの若者が住居を借りることで、地域には不動産需要が生まれます。学生は、アルバイトとして地域に安価な労働力を提供し、旺盛な消費の主体でもあります。地域外からやってきた学生が実家から受け取る仕送りが、地域社会にとって

答弁内容

町長：本町では、地域振興やまちづくりなどの課題解消に向けて、大学連携による取り組みが推進されています。滝・金屋地区のXキャンパスなどがその一例ですが、こうした一つの目的に向けたプロジェクトを地域と大学との交流、連携によって取り組み、推進することが、地域の活性化を図る意味においても現実的な施策ではないかと考えています。

重要な「外貨」となります。つまり、大学設置は、地域にとっても**有用な地域経済の強化施策**となりえるということです。

そして、三つ目は、私たちは**新しい大学教育の模索をはじめべき**だという理由です。世界の社会構造の変化とIT革命を通じて、世界は国家の枠組みを大きく越え、地球規模で異文化間の直接的なつながりが可能となるグローバルな社会を迎えています。こうした大きな転換期を迎えた世界で、日本の大学は、学生たちに未来を生き抜くための力を身につけてもらうため、時代の変化に対応した教育を提供しているのでしょうか。私は必ずしもそうだとは言えない印象を持っています。

今一度、**未来を生きる次なる世代のために、彼ら彼女たちが生きる未来を想定し、時代の変化に対応した大学教育のあり方について**、私たちなりの議論をはじめてみましょう。

以上を踏まえて、**京都府北部における国公立大学新設・誘致活動に対する見解及び取り組みについて質問**します。

※2004年に開学した秋田の国際教養大学は1学年170名あまりの小さな公立大学にも関わらず、卒業生の就職実績の良さなどで近年脚光を浴びています。こうした事例を参考にしながら、議論を進めていきたいと考えています。

ともに、未来を創ろう

山添藤真

30歳の成人式 in 与謝野のその後

2012年3月24日に開催した「30歳の成人式」に参加してくれた同級生が、ふるさとへ貢献したいという強い想いをカタチにしてくれました。大阪で飲食店を経営する林君、先月オープンしたばかりの新店舗の椅子を正絹丹後ちりめんを使用して製作してくれました。

同級生の林くんと



レイテ島を訪問

3月30日～4月3日までの5日間、フィリピンのレイテ島を訪れてきました。気温は30℃を越え、東南アジア独特の熱気に包まれるこの島は、第2次世界大戦において日本軍対アメリカ軍の陸上戦闘地となり、日本兵だけで7万人以上の戦死者がでるなど、世界の歴史に暗い影を落としています。多くの曾祖父の弟にあたる山添勇夫大尉もレイテ島の警備隊長を務めていた。1943年4月にフィリピンゲリラとの遭遇戦を戦い戦死されています。彼は親切かつ思いやり深い人柄で、単に彼の部下の信頼と尊敬を受けただけでなく、地域の住民からも本当の土官であり、かつ紳士として尊敬を受けていたそうです。終戦後、地元住民の方により彼の威徳をしのぶ記念碑が地元の住民の方々の手により建てられました。この訪問では、記念碑を訪れて鎮魂の祈りを捧げたり、当時の大尉を知る島民の方々やドラグ市長、タクロバン市長と会談してきました。



山添勇夫大尉の慰霊碑の前で

祭

4月末から5月前半にかけて、与謝野町内で多くのお祭りが開催されました。いくつかの地域に立ち寄り、お祭りの説明を聞かせてもらい、所作に込める想いの強さやその継承の歴史に感心させられました。ぼくが暮らす石田地区は奉納行事として「太刀振り」や「笹ばやし」を行いました。ぼくは最年長の太刀の振り手として精一杯のがんばりをみせたつもりです。今年一年、与謝野町の皆さんに益々の幸せが訪れますように！



後野地区宮本町の子ども歌舞伎



三河内地区の曳山祭り



石田地区の太刀振り

送別会

春から大学などに進学するため、この地域を離れる高校生たち約20名を送り出す送別会を開催し、彼ら彼女たちの前に広がる明るい前途を祝福しました。

みんな、元気にしているかな。

行政視察へ

5月14・15日の2日間にわたり、産業建設常任委員会の視察を行うために広島県北広島町・岡山県倉敷市を訪れました。

北広島町では民泊事業（子どもたちの田舎宿泊体験の提供する事業）や定住促進事業（空き家バンク制度）などについて、倉敷市では地場産業である繊維業支援に対する取組み（新素材・新技術による商品開発支援、人材育成支援）などについて学ぶことができました。



行政視察にて

www.yamazoetoma.com

ホームページにて山添藤真の日頃の活動をリアルタイムでお伝えしております。

山添藤真後援会

〒629-2263 京都府与謝郡与謝野町字弓木493番地

TEL: 0772-46-2031(携帯 080-2077-4591) FAX: 0772-46-4394

EMAIL: toma.yamazoe@gmail.com